



ロシアNIS経済速報

社団法人 ロシアNIS貿易会

2007年（平成19年）

9月5日号

No. 1406

目次

■ロシアの建設機械製造分野の状況	坂口 泉 1
■トピックス	9
川崎汽船が上海～黒海直航便を就航／9	
カザフがカシャガン油田の開発を中断／9	
■エトセトラ	9
「ロシア貿易統計データベース」2006年データを収録／9	
■ロシアNIS貿易会関連の行事予定	10
■ロシア・NIS諸国通貨の為替レート	10

ロシアの建設機械製造分野の状況

はじめに

ロシアの建設機械市場は経済の好調さを背景に急激に拡大している。2007年4月18日付『コメルサントビジネスガイド』誌によれば、2006年の市場規模（輸入中古建設機械も含む）は前年比で5.8%増加し、約21億ドルに達した。2007年も同様の伸び幅が期待できるとのことであり、さらに長期的に見ても、市場規模の拡大が続く可能性が高い。ロシアでは建設機械の絶対数が不足している上に、稼働中の機械の老朽化傾向も著しいからだ。一説によれば、現在ロシアで稼働中の建設機械の45～75%が耐用年数を超えているといわれている（www.exkavator.ru、2007.7.4）。

2003年末時点と、やや数字が古いが具体的な事例を挙げると、ロシアに登録されているブルドーザー（全体で1万9,335台）のうち56.6%が耐用年数を超えていたといわれている。また、エクスカベーター（1万9,721台）の場合は、48.4%が耐用年数を超えていたといわれている（いずれもロシア連邦国家統計局発表の数字）。

こうした状況に加え、今後は、商業ビルや住宅の建設の他、道路や鉄道の整備事業も本格化すると見られており[※]、建設機械に対する需要が加速的に増加するというシナリオも十分に考えられる。多くの外国建設機械メーカーがロシア市場に熱い視線を注いでいる